



弘前医療福祉大学紀要

*Journal of Hirosaki University
of
Health and Welfare*

第1巻 第1号
2010年3月発行

弘前医療福祉大紀要
J. Hirosaki Univ. Health Welf.

弘前医療福祉大学紀要編集委員会

目 次

紀要創刊号発刊に寄せて…………… 弘前医療福祉大学長 豊川好司
開学を飾る「紀要創刊号」の発刊によせて…………… 理事長 下田敦子

目 次

[総 説]	前頭側頭葉変性症 (Frontotemporal Lobar Degeneration) 特にMNDと運動系外封入体を伴う前頭側頭性認知症に関して 吉村 教暁……………	1
[原 著]	A県における看護・介護従事者の認知症に対する知識、ケアの理解度と今後の課題 — 講演会参加者の自己評価から — 小池 妙子、梅林 奎子……………	23
[原 著]	NICUに入院した児と健常児をもつ母親の母子保健サービスについての認知・利用状況と 希望するサービスの比較 宮岡 久子、深沢 洋子、藤本 薫、中北 充子、松永 佳子……………	31
[原 著]	声道の立体模型作成の試み 白坂 康俊、熊田 政信、肥沼 武司、池上奈津子、町田 芳明……………	37
[原 著]	生活習慣改善を狙いとした教育実践方略の検討 第1報 学習形態・方法比較を中心に 浅田 豊、竹森 幸一……………	45
[原 著]	生活習慣改善を狙いとした教育実践方略の検討 第2報 学習効果を高めるための視点 竹森 幸一、浅田 豊……………	53
[原 著]	看護学生のコミュニケーション技術教育の効果と問題点 奈良 知子……………	59
[原 著]	マウス中脳黒質から急性単利したGABA作動性ニューロンのグルコース感受性応答 — 穿孔パッチクランプ法による解析 — 菅 世智子、山田 勝也……………	67
[研究報告]	ジュンサイ粗製多糖による粘性を備えた減塩醤油の研究 蓮井 裕二、豊川 好司……………	77
[ノ ー ト]	高次脳機能障害者の社会生活支援 — 青森県の現状を踏まえて — 佐々木千穂、小玉 有子、丹野きみ子、早川 宏子、下田 肇 ……	85
	紀要規程・投稿要項……………	91
	編集後記	
	紀要編集委員会委員	



弘前医療福祉大学紀要規程

(目的)

第1条 弘前医療福祉大学紀要(以下「紀要」という。)は、弘前医療福祉大学(以下「本学」という。)における研究成果発表を目的として、定期的に刊行する。

(発刊)

第2条 紀要の発刊は原則として年1回とし、本学紀要編集委員会(以下「委員会」という。)がその任にあたる。

2 紀要は、発刊前年度の10月1日から発刊年度の9月30日までに投稿された論文を一号として刊行する。

3 発刊期日は原則として発刊年度の末日までとする。

(投稿資格者)

第3条 紀要への投稿資格者は、次のとおりとする。

- 1) 本学専任教員
- 2) 第一号の共同研究者
- 3) その他紀要委員会が適切と認めた者

(受付・査読・採否)

第4条 投稿原稿は他誌に未掲載で且つ投稿中ではない論文に限る。

2 投稿原稿は各学科の編集委員を経て随時受け付けられ、同委員会は預かり証を発行する。

3 預かった論文のうち短報以外はすべて第三者に査読される。査読後、委員会は投稿論文の体裁及び内容について修正を求めることがある。

4 論文の採否は編集委員会において決定され、その結果は書面で通知される。

(著作権)

第5条 掲載論文の著作権は弘前医療福祉大学に属し、論文の電子化は了承されたものとする。

(経費負担)

第6条 投稿原稿が規定の枚数を超過した分については、著者の負担とする。

2 初校の際には別刷の必要部数を委員会に申告するものとする。

3 別刷は10部まで共通経費負担とし、それを越えた分は著者負担とする。

(倫理的配慮)

第7条 投稿論文は、倫理的配慮がなされ、且つその旨が本文中に明記されていなければならない。

(その他)

第8条 論文の投稿要項に関しては、紀要編集委員会が別に定める。

附則 本規程は2009年7月16日か

弘前医療福祉大学紀要投稿要項

1. 投稿論文

投稿論文は他誌に未掲載で且つ投稿中ではない和文及び英文の原著、研究報告、総説、論説、研究ノート、短報、その他とし、随時受け付ける。

2. 論文の種類

他誌に未掲載で投稿中ではない以下①-⑦の論文を受け付ける。

尚、①-⑤は査読があり、⑥⑦は査読なしとする。

- ① 原著：独創的な研究により、新しい知見、理論を示した論文
- ② 研究報告：研究上の問題提起、興味深い事実や実態・事例・症例に関する論文
- ③ 総説：ある主題に関連した研究の解説、総括
- ④ 論説：主題に関する理論の構築、展望、提言
- ⑤ 研究ノート：論文としては未整理であるが、すぐに知らせる意義のある研究
- ⑥ 短報：教育実践報告、研修報告、国際学会、セミナー報告
- ⑦ その他：委員会が必要と認めたもの

3. 投稿資格者

- 1) 本学専任教員
- 2) 1) の共同研究者
- 3) その他 委員会が適切と認めた者

4. 倫理的配慮

人および動物を対象にする研究では、倫理的に配慮し、その旨を本文中に明記する。

研究が適切に行われたことを示すため、「本研究は弘前医療福祉大学研究倫理規程に沿って行われた」、英語論文の場合は“The study was performed in accordance with the Rules for Ethics of Study, Hirosaki University of Health and Welfare.”と文中、または文末に明記する。

執筆・投稿要領

1. 原稿の構成と表記

- 1) 原稿はA4版、10ポイントで1枚につき40字(英字・数字は半角)×40行 横書きとする。

原著、研究報告、総説、論説は10枚(16000字)以内とし、研究ノート、短報、その他は5枚(8000字)以内とする。但し、図表1枚は800字(半枚)分に数えるものとする。欧文の場合にはA4版、ダブルスペースで1枚につき26行でタイプする。

欧文は必ずnative speakerによる校閲を受けたものであること。

- 2) 表紙には論文題名、著者名、所属および所在地(希望するならe-mailアドレスも)を和文と欧文の両方でそれぞれ明記する。さらに本文枚数(引用文献、要旨を含む)、図、表、写真、図表の説明文などの枚数を記載し、最後に論文の種類:「原著」(例)のように明記する。2枚目には400字以内の和文要旨とキーワード3-5語、3枚目には250語以内の英文要旨とkeywords 3-5語を記す。
- 3) 図表の使用は最小限にとどめ、「図1」、「表1」、「写真1」等 それぞれの通し番号をつけ、本文とは別に一括する。
これらの挿入希望場所を本文原稿右余白にそれぞれ指定する。図、表、写真については印刷時の大きさを明記する(例:原寸、70%、50%など)。
- 4) 外国の人名、地名に原語を用いるほか、叙述中の外国語にはできるだけ訳語をつける。
- 5) 注は脚注として最小限にとどめる。

2. 文献記載の様式

- 1) 引用文献は、本文の引用箇所の肩に1)-3)と表し、最後に一括して引用順に掲げる。
- 2) 参考文献は、最後に一括して著者名のアルファベット順に記載する。

3) 引用・参考文献の記載方法・順序

〈雑誌〉著者名：表題名. 雑誌名. 巻(号)：頁-頁, 発行年

〈単行本〉著者名：論文題名. 書名(版表示). 編者名. 頁-頁. 発行地：出版社. 発行年

〈訳本〉著者名：論文題名. 書名(版表示). 編者名. 訳者名. 頁-頁. 発行地：出版社. 発行年

3. 投稿の際の提出書類

1) 原稿：表紙、和文要旨、英文要旨、本文、図表

(原著・研究報告書・総説・論説・研究ノート・短報 ともに1部、査読を要するものについてはコピーを2部提出する)

2) フロッピーディスクまたはCD(1枚)：ソフトはワードとし、ファイル名を「本文」

「和文要旨」「英文要旨」「図1」などとする。

3) 紀要原稿提出表(委員会より様式配布)：連絡先(氏名、住所、電話番号、メールアドレス)と別刷希望部数を記入する。

4. その他

1) 著者校正は原則として一校までとする。校正時の大幅な追加、修正は原則として認めない。

2) 別刷は10部まで共通経費による負担とする。

編 集 後 記

弘前医療福祉大学紀要編集委員会

吉 村 教 暉

創刊号をお届けします。開学間もない弘前医療福祉大学の紀要に、多くの教員の協力により、10編の投稿論文を掲載できましたことにお礼申し上げます。内訳は総説1、原著7、研究報告1、研究ノート1編です。学術雑誌の発刊は大学から発信される情報の中でも最も重要なものの一つです。東北・北海道をはじめ、全国の関連大学や、関連の教育研究施設等に配布し、弘前医療福祉大学のデビューを知らせて、今後の交流の挨拶に代えることとなります。

学術雑誌の刊行は定期的である必要があります。当面は年1回の発刊ですが、学術活動が自ずとより活発になり、やがて年に2回（1号と2号が）発刊できるとよいと考えています。言うまでもなく、教育と研究は大学発展の両輪ですが、この紀要創刊号には既に3編（3割）の教育に関する研究論文も掲載されています。掲載された10編の論文の多くは本学へ赴任前に既に研究データが得られていたものであり、新任教員各位のいわば予備力によって投稿された論文です。弘前医療福祉大学はこの一年で確かな地歩を固めつつありますので、今後、紀要に投稿される論文には本学でなされたものが徐々に増してゆかねばなりません。そのためにも共同実験室の整備が待たれるところです。

本学で、本学教員により、医療福祉の教育・研究が益々活発になされる日の来ることを念じつつ、紀要編集委員会は常時原稿を受け付けております。各位の力作をお待ちしています。

弘前医療福祉大学
紀要編集委員会

委員 長	吉村教暉
副委員 長	矢嶋和江
委 員	三浦秀春
委 員	梅林奎子

Journal of Hirosaki University of Health and Welfare

弘前医療福祉大学紀要

第1巻 第1号

平成22年3月17日発行

編集・発行 〒036-8102 弘前市小比内3-18-1
弘前医療福祉大学内 紀要編集委員会
TEL：0172-27-1001

印刷所 〒036-8061 弘前市神田4-4-5
やまと印刷株式会社
TEL：0172-34-4111 FAX：0172-36-3299

Contents

[Review]

Frontotemporal Lobar Degeneration: with special reference to frontotemporal dementia with ALS and extramotor inclusions

Noriaki Yoshimura 1

[Original]

Knowledge for dementia of nursing / care professionals and understanding degree and a future problem of care in A prefecture: an analysis of self-evaluation of lecture participants

Taeko Koike and Keiko Umebayashi 23

A comparison between mothers of babies with NICU hospitalization and mothers of healthy babies concerning mothers' awareness, use and desired programs of maternal and child health services

Hisako Miyaoka, Yoko Fukasawa, Kaoru Fujimoto, Mitsuko Nakakita, Yoshiko Matsunaga 31

Manufacture a Three-dimensional Model of the Human Vocal Tract

Yasutoshi Shirasaka, Masanobu Kumada, Takeshi Kinuma, Natsuko Ikegami, Yoshiaki Machida ... 37

An Analysis of the Educational Strategy to Help Improve Life Style Customs

Part 1; The Evaluation of a Teaching-Learning Method

Yutaka Asada and Koichi Takemori 45

An analysis of the educational strategy to help improve life style customs

Part 2 ; Aspects to increase educational effectiveness

Koichi Takemori and Yutaka Asada 53

The effects and issues of training nursing students in communication skills

Tomoko Nara 59

Glucose-sensitivity of GABAergic neurons acutely dissociated from midbrain nucleus substantia nigra of mouse; an analysis by a perforated patch clamp method

Sechiko Suga and Katsuya Yamada 67

[Report]

Studies of Functional Low Salt Soy Sauce with Viscosity from Polysaccharides of Junsai (*Brasenia Schreberi* G_{MEL})

Yuji Hasui and Kouji Toyokawa 77

[Note]

Support for Community Participation of Persons with Higher Brain Dysfunction

—An Examination of the Current Situation in Aomori Prefecture—

Chiho Sasaki, Ariko Kodama, Kimiko Tanno, Hiroko Hayakawa, Hajime Shimoda 85

正 誤 表

(弘前医療福祉大学紀要 第1巻第1号)

		誤	正
頁	行目		
目次	10行目	入院した <u>児</u> と健常児をもつ母親	入院した <u>児をもつ母親</u> と健常児をもつ母親
目次	23行目	急性 <u>単利</u>	急性 <u>単離</u>
16	左段30行目	Consortium for,	Consortium for <u>Frontotemporal Lobar Degeneration.</u>
17	左段1行目	土屋	土谷
17	左段2行目末	への展望.	への展望. <u>臨床神経学 49:783-785, 2009.</u>
19	右段1行目	<u>Dementia Japan</u>	削除
19	右段6行目	分類. 22: 231-237, 2008.	分類. <u>Dementia Japan 22: 231-237, 2008.</u>
20	右段6行目	<u>et al.</u>	<u>Cookson N, Ishizawa T, Hutton M, de Silva R, Lees A, Dickson DW.</u>
83	4行目	<u>Department of Nursing, Faculty of Health Science</u>	削除
83	6行目	<u>Department of Nursing, Faculty of Health Science</u>	削除